

## 【定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数)】

## 小児科定点(7医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	18	19	20	21	22
RSウイルス感染症	0.14	0.14	0.00	0.00	0.71
咽頭結膜熱	0.14	0.71	0.14	0.57	1.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.71	2.14	1.86	2.29
感染性胃腸炎	2.71	7.00	10.57	8.57	6.14
水痘	0.00	0.57	0.43	0.43	0.43
手足口病	0.00	0.29	0.29	2.14	1.00
伝染性紅斑	0.29	0.14	0.43	0.71	0.29
突発性発しん	0.00	0.57	1.00	0.71	0.00
ヘルパンギーナ	0.00	0.00	0.00	0.14	0.14
流行性耳下腺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## インフルエンザ定点(11医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	18	19	20	21	22
インフルエンザ	0.27	0.55	1.09	1.82	0.82

## 眼科定点(2医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	18	19	20	21	22
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.00	0.50	1.50	1.00	1.00

※定点医療機関あたり患者数とは

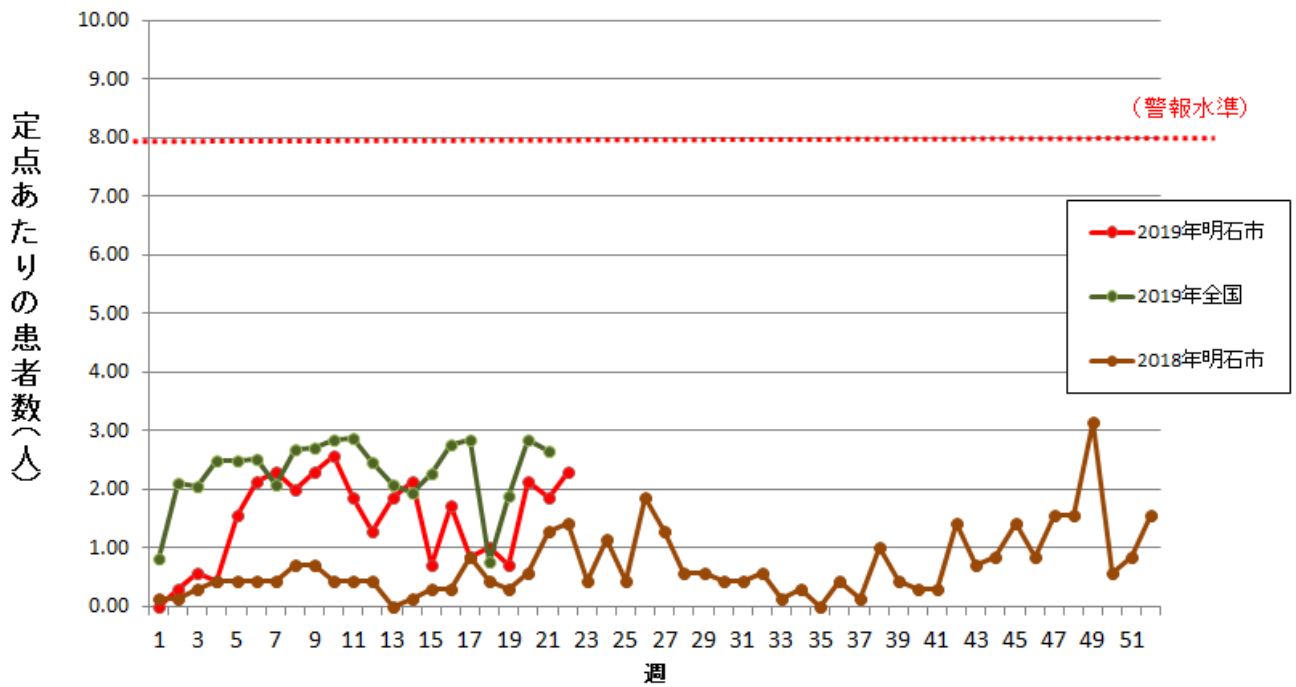
定点医療機関とは、保健所に一定の基準に従い、感染症の発生状況を報告してもらった医療機関のことです。

また、定点医療機関あたり患者数とは、一週間に一つの定点医療機関から、どのくらいの報告があったかを表す数値で、この数値によって各地での感染症の流行を把握することができます。

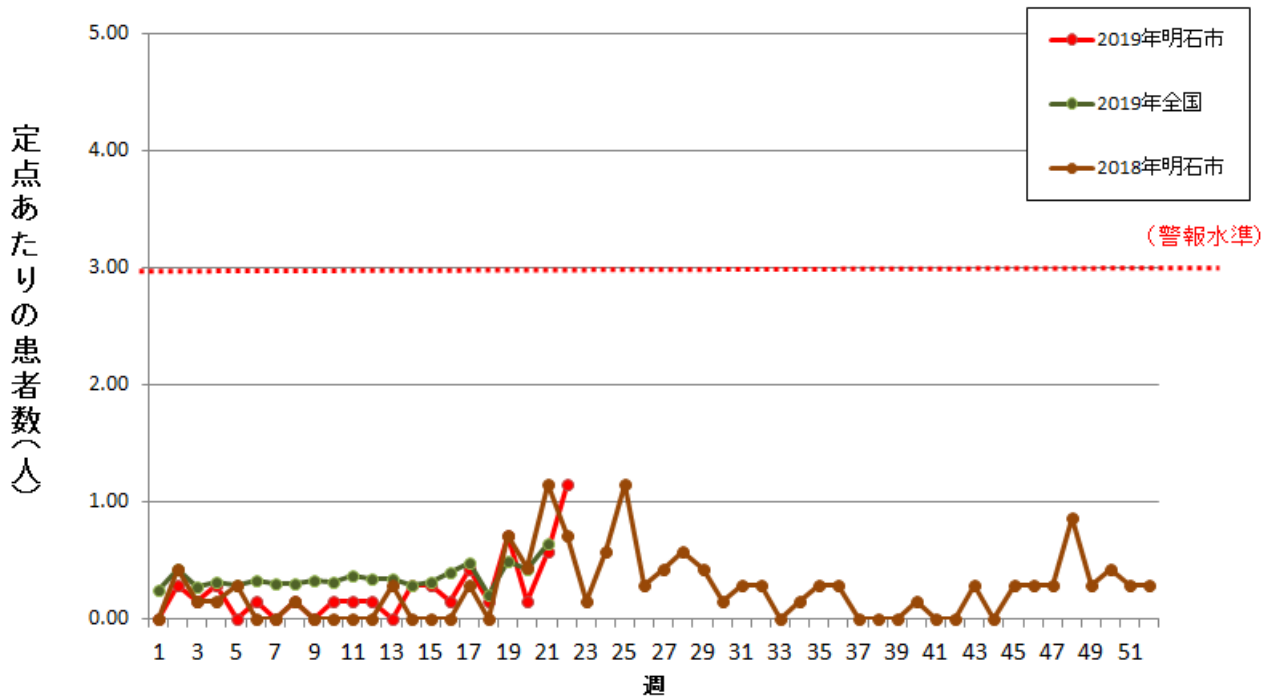
たとえば、あかし保健所管内で感染性胃腸炎の報告が合計20件あったとすると、定点医療機関あたりの患者数は、報告数(20件)をあかし保健所管内の定点医療機関数(7医療機関)で割り算をします。そうすると、定点医療機関あたりの患者数が計算できます。

この場合は、 $20 \div 7 = 2.86$ となります。

定点あたりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数



定点あたりの咽頭結膜熱患者報告数



【全数把握対象感染症発生状況】

感染症分類	疾病名称\週	2017年	2018年	2019年					1週～累計
				18	19	20	21	22	
二類	結核	69	79				1		15
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	11			1			1
	細菌性赤痢		1						0
四類	E型肝炎		1						0
	デング熱		1						0
	日本紅斑熱		1						0
	レジオネラ症	3	12	2					3
五類	アメーバ赤痢	2	3						0
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎、E型肝炎を除く)	1	1						0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2	1			1		2
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	23	1	2		1		10
	梅毒	8	11				2		5
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5	2						1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	3				1		1
	水痘(入院例に限る)								1
	後天性免疫不全症候群	1	2				1		1
	播種性クリプトコックス症	1	0						1
	百日咳※	-	3				1		10
	麻疹	2	1						1
	風しん		3						0

※百日咳は2018年1月1日から五類感染症の全数届出対象となりました。

**プール熱(咽頭結膜熱)が増加しています！**

明石市内の定点医療機関あたり患者数が2019年第22週は1.14と、第21週の0.57より増加しています。咽頭結膜熱は、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークとなります。今後さらに拡大する可能性があり、注意が必要です。

**咽頭結膜熱とは**

- ・アデノウイルスによる感染症です。
- ・発熱(38～39℃)、咽頭痛、結膜炎の症状が3～5日間ほど続きます。
- ・潜伏期間は5～7日間です。

**感染経路について**

- ・飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染します。
- ・プールを介した場合には、汚染した水から結膜への直接侵入も考えられます。

**予防方法について**

- ・流水とせっけんによる手洗いをしましょう。
- ・感染者との密接な接触を避けましょう(タオルの共用はせず、個人使用としましょう)。
- ・衛生を保つため、プールから上がったときに、シャワーを浴びましょう。